

東京水道の将来を考えるに当たっての基本的視点

1 豊かな暮らしを支える水道

近年、安全性の不安やおいしさへの不満などから、飲み水としての水道水に対して、十分な満足が得られていない。一方で、安全でおいしい水の供給に大きな期待が寄せられており、蛇口から直接飲む水道が再認識されようとしている。

今後、より一層、生活の高度化が見込まれる社会状況においても、都民の暮らしを支える水道が求められている。

2 断水につよい高水準な水道

中央防災会議でM7クラスの首都直下地震の切迫性が指摘され、大規模な断水被害が想定されている。日本の人口の約1割を抱え、政治・経済の中核機能が集積している首都東京では、ひとたび水道の供給が途絶えると、都民生活や首都機能への甚大な影響が予想される。

このため、平常時はもとより震災時等の非常時であっても、断水につよい高水準な水道が求められている。

3 次世代につなげる水道

今後、経験豊かな職員は漸減し、特に技術職員は概ね10年後には現在の半数程度まで減少することが見込まれる。一方、高度経済成長期に集中整備した水道施設は、老朽化の進行に伴い保守点検が増大すると共に、更新時期の集中化も予想される。

こうした状況においても、健全な施設を保持し、安定給水を確保し続ける水道が求められている。

4 地球環境に配慮した水道

近年、地球規模において環境への負荷が深刻化しており、環境問題は喫緊の課題になっている。水道事業は地球が育んだ水を資源としているため、地球環境と密接に結びついた事業である。また、同時に事業活動において多くのエネルギーを消費している。

局事業から発生する環境負荷を継続的に低減するため、より一層エネルギー効率に配慮した水道が求められている。

5 わかりやすく親しみやすい水道

暮らしの安全への関心が高まる中で、水道水に対してより一層の安全、安心を求める声が強まっている。こうした中、東京水道は、お客さまの要望に応えるべく、多様な取組により給水サービスの向上に努めてきている。

東京水道の取組が、お客さまの生活にどのように関わり、どのようなサービスにつながるのかなど、わかりやすく情報提供し、より一層の信頼を得ながら事業を進めていくことが求められている。

6 水道界をリードする水道

東京水道は、近代水道の創設以来、百余年の歴史の中で、困難な課題を克服し、また、様々なノウハウも蓄積してきている。

こうしたノウハウなどを活用し、水道事業における多様な課題を解決する先導的な役割を担っていくことが求められている。